

安芸市立歴史民俗資料館開館

40

周年記念特別展「

とびこめ! 絵図の世界



【会期】令和7年4月19日(土)~7月13日(日)

Ⅰ 昔の安芸をみてみよう



●安芸村図屏風(部分)

岡 南岡筆 江戸末期～明治初期

安芸の沖から安芸平野を描いた屏風。

安芸川(左)と伊尾木川(右)の河口が一つになった所は、「船場」と呼ばれ、小船がたくさん集まっている。

また、沖には大型船が留まり、浜から小舟で材木などの荷を積み込んでいる様子がうかがえる。

☆探してみよう☆

漁をする人・船で荷物を運ぶ人・
橋を渡る人・馬に乗る人・釣りを
する人・浜で海水をまく人
安芸城跡・伊尾木洞・大山岬



●内原野 天野瘦石筆 安芸市保護有形文化財指定

瘦石は出雲国松江の人で、大阪に出て南画を学んだ後、明治 20 年(1887)土佐に移り住んだ。本画は安芸市内原野の弁天池や延寿亭を写したもので、明治期の内原野の風景を描いたものとして貴重である。

内原野は五藤氏によって藩政時代に整備され、その際に多くのツツジが植えられ、現在では約 1 万 5 千本のツツジを中心に、梅や桜、藤、アヤメ、ショウブと春先から初夏にかけて花が咲き、花の名所となっている。



2 土居ってどんなところ？

【土居】とは元々有力武士や土豪の屋敷のことをいい、土居に配置された家老「土居付家老」は、土居と高知城下の両方に屋敷を構え、土居を中心とする知行地の年貢徴収権や、領民に対する裁判権が与えられた。土佐入国後、山内氏は長宗我部時代から軍事拠点として重要であった佐川・宿毛・窪川・本山・安芸の土居に重臣を配置した。

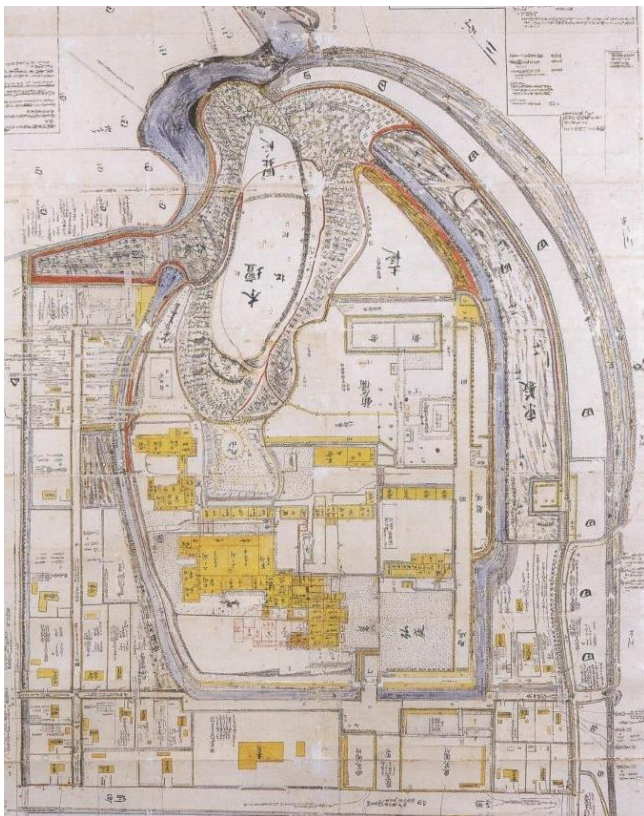
●安喜土居内外細図(部分)

五藤家文書 江戸時代後期

五藤家安喜屋敷のある土居と外郭の廓中図。土居内の屋敷は、部屋割りが詳細に書き込まれ、朱書きで増築計画まで描かれている。

明和4年(1767)屋敷帳をもとに作成されたと思われる、道幅、屋敷の面積、寸法など屋敷帳と同様の記載がみられる。また、各屋敷の住人名や区割りの変更などが貼紙で訂正、加筆されている。

屋敷帳とともに、土地台帳的役割としても実務的に使用されていたと思われる。



…ここはどこだろう？

●佐川土居図 寛文12年(1672)

土佐藩筆頭家老・深尾氏の知行地だった、佐川(現高岡郡佐川町)を描いた図。図の中央の土居屋敷は誇張して描かれているが、それを取り巻くように上級侍屋敷が山麓に配され、土居を中心に、町人と武士の住み分けがよくわかる絵図である。

中町・西町は豪商の家が軒を並べる中心街で、現在も残る重要文化財の竹村家住宅や、司牡丹酒造の蔵や白壁が歴史をうかがわせる。



NHK 朝の連続テレビ小説「らんまん」の主人公・牧野富太郎博士のふるさとだよ！



3 絵の中の高知

●高知御家中等鹿図（部分） 享和元年（1801）

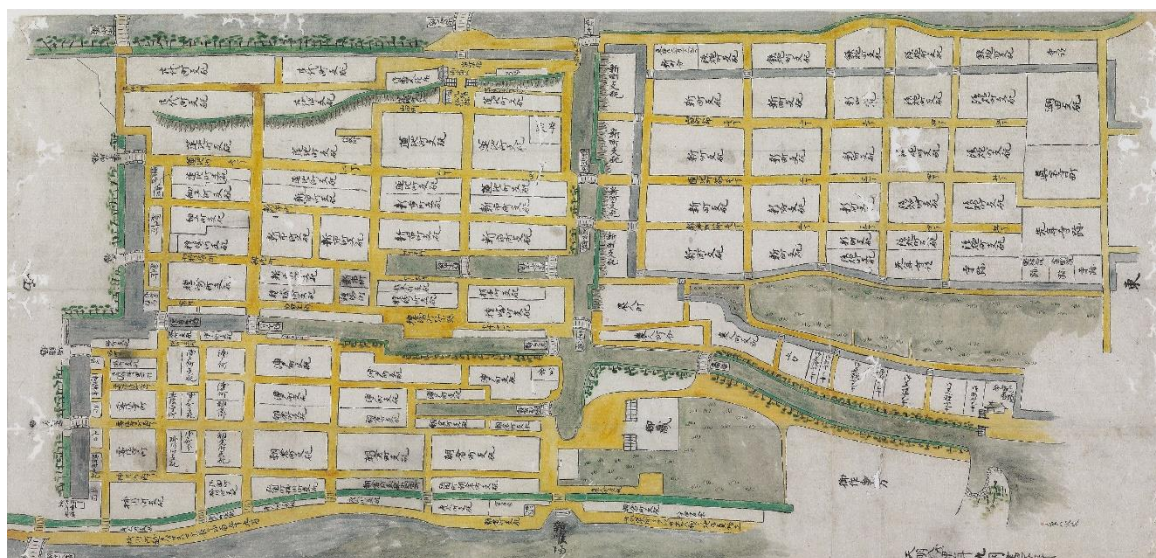


絵の真ん中の空白部分は高知城だよ。
詳しく描かれていないんだね。
お城の周りには、家臣たちのお屋敷が
集まっているよ。
五藤家のお屋敷はどこかな？
今の町の様子はどうなっているんだ
ろう。



東は堀詰、西は升形まで、町人町と区切られた武家居住区屋敷が描かれた図。
図中心の堀に囲まれた高知城は、内部情報は描かれず省略され、城廻りに藩の重臣を、
東北部や南西部には与力屋敷が配された。城の南門前には、五藤家の屋敷が深尾家と
並んで見られる。
また、藩の役所であった「北会所」「南会所」が追手門の東とその南の帯屋町に描かれて
いる。図の左下、上町辺りは写し間違いと思われる。

●上：高知街図 天明8年（1788）写



武士の居住空間である郭中の東、堀詰より東の範囲を表している。
下町は、浦戸湾に通じる堀割が縦横に通じ、臨港地区の役割を持っていた。堀沿いには、上
方から誘致した商人町の堺町・京町、城下外の浦戸・種崎からの住民が多い町が配され、そ
の東端には船着場や藩の米蔵、水主屋敷などの物流拠点も置かれた。
升形以西の上町の範囲を表した「高知上町分図」と、対になるよう作成されたと思われる。